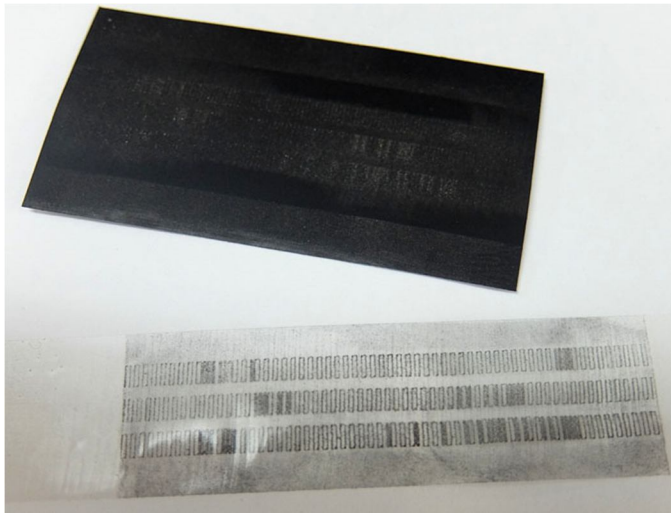


「磁気切符の秘密 (5)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋



磁気切符には3列の磁気列があり、それぞれに約80本のバーコードがある。いろいろ調べてみると、各列の情報の正体がわかってきた。

【A列 (1段目)】

有効終了日、発駅、線区(線名)、他社連絡駅券種など

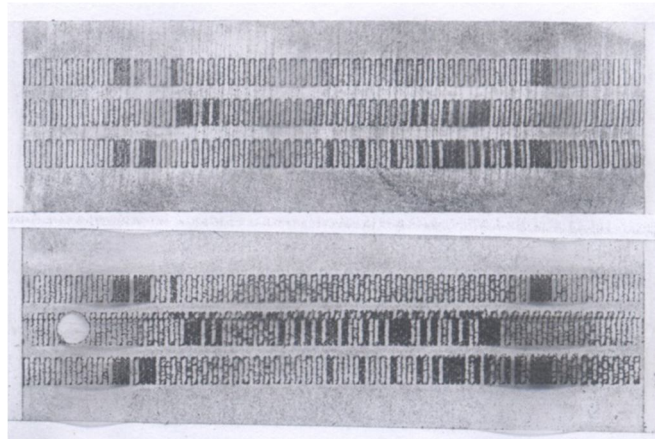
【B列 (2段目)】

有効開始日、実際の乗車駅、乗車時刻、降車時刻入出場(途中下車・乗り換えなど)の記録など

【C列 (3段目)】

主として原券の経由駅

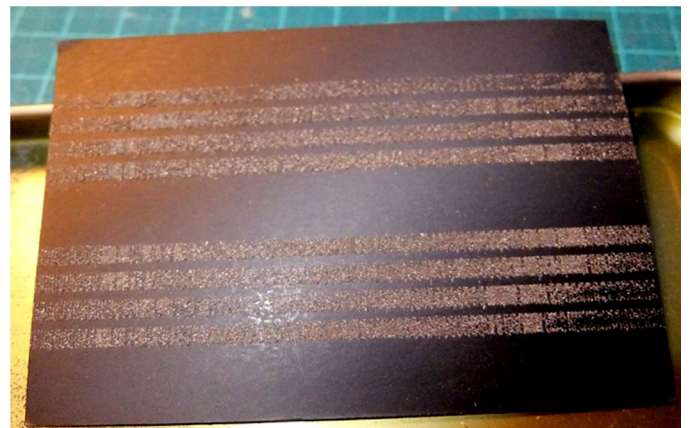
これを見ると、1段目と3段目の情報は、乗車前(未使用時)も乗車後(自動改札通過後)も変化しない、原券独自の情報である。情報が書きかえられるのは、2段目だけということがわかる。改めて、下の画像を見ると、2段目だけのバーコードに変化があることがわかる。これで、磁気切符の仕組みが理解できた。



さて、磁気切符にはもっと大きなものもある。新幹線の指定席券や、私鉄の特急券などである。



これは2008年に走り始めた、小田急線と地下鉄千代田線の直通特急「メトロはこね号」の特急券である。発駅・着駅・料金だけでなく、列車名、乗車日、発車時刻、到着時刻、乗車号車、指定座席番号、クラス、払い戻しの可否、発行場所など、普通の乗車券よりも情報量が格段に多くなる。切符サイズも大きいので、裏面の磁気情報も多いに違いない。幸い、特急券や座席指定券は、乗車券とちがって、持ち帰ることも可能だ。さっそく試してみた。



予想通り、切符の裏の磁気面には、8本のラインが存在した。それぞれにバーコード状の縦筋が見られる。私が驚いたのは、この磁気情報の多さではない。8年以上も前に購入した切符の磁気情報が、まったく減衰せずに保存されていたという事実である。

こうなると、図に乗って、切符以外の磁気媒体も、ちょっと調べてみたくなってきた。